



5/31 田植えイベント開催!!

～当日スケジュール～

- 10:00 集合・田植えレクチャー
- 10:30 田植え開始!!
- 12:00 お昼ご飯
- 13:00 田植え午後の部
- 15:00 こびるま・講義
「田んぼの生物多様性」



全国的にも梅雨入宣言が出され、しばらくはこのじめじめ天気のお付き合いとなりまして。しかし憂鬱な雨も田んぼにとっては恵みの雨！田植えの終わった志多留から、田んぼのお便り第2号をお届けします！



第2号
2014.6



発行元
志多留地区
活性化協議会
0920-85-1755
(事務局MIT)

天候にも恵まれた5月31日、オーナーさん達を招いての田植えイベントを開催いたしました！オーナー制度1年目、初めての田植えでしたが、当日は、8組27名のオーナー様にご参加いただき、近隣住民含め、総勢42名での田植えとなりました。今回植える苗は5月上旬に種まきをし、「いい苗だ：」と川口さんがほればれするほど、よく育っていた苗：のハズだったのですが、なんと田植え前日の朝、シカにかじられてしまうという大事件が！どうしたもんかと頭を抱えていたところ、すぐに隣の地区の農家さんから「余った苗があるから持っていかな」と連絡が！救世主の登場に感謝するとともに、



なんといつてもその情報の速さに驚かされました。対馬の情報の速さは最近のSNSよりも早いのではないかと、改めて感じた一件でした。
さて、こうして無事に苗も用意でき、なんとか田植え当日を迎えました。田植えは全て手植えで行います。田んぼに横一列に並び、一列一列丁寧に手植えしていきます。たまに列が乱れるのはご愛嬌！4枚の田んぼに植え終わったところで、いったん休憩して昼食に。志多留のおばちゃんたちが作ってくれたとん汁とおにぎりを田んぼでいただきました。動いた後に食べるご飯は美味しく、たくさんあったとん汁もきれいに無くなりました。

▲おやつに食べた
ぼたもち。
対馬ではこのこしあんの
ぼたもちが一般的です。
おばちゃん達がたくさん
作ってくれました！



うまい!!

昼食後、再び田植えに戻り、今回予定していた7枚の田んぼ全てで田植えを完了することができました。ぬかるむ田んぼの中を歩くのは大変ですが、普段とは一味違う体験を通して、何か感じることもあったのではないのでしょうか？
参加してくださった皆様、本当にありがとうございました！ごさいました！参加できなかった皆様も、今回は残念でしたが、見学はいつでもOKですので、ぜひご連絡ください♪

『除草』

さて、田植えが済んだあと、お米作りにとって重要な仕事があります。それが「除草」です。

田植えが終わって数日後、田んぼの中をよーく見てみると、小さな雑草の芽をたくさん見つけることができます。田んぼの中に生えた雑草は稲と栄養を取りあうので、除草作業が非常に重要です。

除草のゴールデンタイムは田植え後の1〜2週間と言われ、この時期、まだ小さく簡単に除草できるうちにしっかりと管理することが重要です。

慣行農法では除草剤で一気によつてしまうのですが、



7日の田んぼの教室で除草を行いました

ハ反ずり：土をこすり除草する道具。詳しくはブログをチェック！

が、それを使わないとなるとなかなか大変な作業となります。小さくま手などを使って表面をかき取りかきと掻いて、芽を水面に浮かしたり、土の中に埋め込んだりします。たとえ芽が見えていなくても、土の中には今から生えようとする芽があるので、水田全体にやるのが重要で、根気のいる仕事です。

除草剤が広がる前は、手作業で除草を行っていたわけですが、その中で画期的な道具として導入されたのがハ反ずり。さらにそれが進化して、歯が回転して耕起も同時に行う中耕除草機が現れました。稲が今のようになり、子状に植えられるようになったのは明治時代からで、苗が並ぶことで風通しがよくなるほか、これらの道具を使つての除草のしやすさも理由の一つとなつたようです。

昨年ひどく悩まされた草との戦いが、今年もいよいよ始まりです。さて、今年はコナギを打ち負かすことができるのか！ 今のご期待！

スペシャルコラム
志多留の田んぼの話



昔々、鶴が一本の稲穂をくわえてやってきて、伊奈という村に落としました。それを拾った村人がお米をやり始めたその場所こそが志多留。ここから対馬のお米作りが始まったのだといわれています。



稲作には畑で育てる陸稲と田んぼに水をはり、その中で育てる水稲の2つがあります。日本では水稲栽培が広く行われていますが、そのルーツは諸説あり、対馬から日本全土に広まったとする説もあります。今は休耕田ばかりが広がる地となつていますが、もしかしたら古い田んぼは志多留にあるのかもしれませんね。

お知らせ

7月5日に第4回田んぼの教室を行います。今月のテーマは、稲の成長特性。再生隊の方はぜひご参加ください。もちろん、サポーターコースの方の参加も大歓迎です。で、興味のある方はご連絡ください。

～第4回 田んぼの教室
予「稲の成長特性」～

ニューズレターの発送はこれまで郵送で行つておりましたが、来月よりメールでの配信に変更させていただきます。お申し込み時にご連絡いただいたメールアドレスへお送りしますので、変更等ありましたら、事務局までご連絡ください。一般社団法人MIT内。左下に問い合わせ先記載。

編集後記
こんにちは、しげです。耕耘機は壊れるわ苗は鹿に食べられるわでトラブル続きでしたが、ようやく田植えも終わりひと段落した志多留から、田んぼのお便りをお届けしました。さあ、お米作りは中盤も大切！雑草抜き、頑張りませよー！

〜今月の志多留人〜
としまつ
米田要光さん
現在オーナー田としている田んぼで、長年お米作りをしてきた83歳の大ベテラン！ちなみに奥様はそば打ち名人。



お問い合わせ

くらしをつくる会社です。



一般社団法人MIT

Tel:0920-85-1755

E-mail:

info@mit.or.jp

